

# 館燈

No.154

2005. 2. 15

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

## 目 次

平野眞一総長に聞く .....	1
附属図書館友の会の発足によせて .....	5
東海地区図書館協議会の設立について .....	5
2004年秋季特別展「川とともに 生きてきた」を終えて(秋山晶則).....	6
経済学部図書室のリニューアル (岡田智行).....	8

## 平野眞一総長に聞く：図書館は知の宝庫、学術の基盤

### インタビュー：伊藤義人館長

平成16年11月24日、伊藤附属図書館長が総長室に平野眞一総長を訪れ、図書館に関するお考えやご感想を伺う機会を得ました。ここに、そのときの対談内容の一部を、平野総長の図書館に関する所感の一端としてご紹介いたします。

#### 知の宝庫、学術の基盤

**館長** 本日はお忙しいなかにも拘らず、時間をおとり下さりありがとうございます。はじめに、総長のこれまでの図書館との関わりや種々の図書館のサービスを利用された感想などをお話しいただきたいと思います。

**総長** 高校在学の際に、ロシア語の手紙を翻訳するため、よく図書館へ通ってロシア語の辞書を利用していました。本格的な図書館利用は、大学4年生からで、その後院生になり、研究を進めるうえで、関連する文献を渉猟するようになりました。私の材料に関する分野は学際領域であるため、各学科・研究室にある資料を頻りに利用する機会が多く、その当時大変な労力と不便を痛感したことがあります。

T大学にいたときには中央図書館がしっかりしていて、あらゆる分野の資料が整備され、文献調査も行き届いていて、本当の意味での



平野 総長

図書館という感じがしました。さらに米国の大学で研究したときは、全学の中央図書館と理系図書館の施設がすばらしく、閲覧サービスのシステムが整備されていて、学問の基礎となる知識の源がここに貯えられているという印象でした。特に専門家である司書の知識、図書館のシステムなどが大変進んでいて、日本と大きな差を感じました。

**館長** 先生の言われる大学図書館の欠点は、私も学位論文を書くときや助手のとき感じていました。現在も不便さがまだ一部残っていますが、七大学(旧七帝大)は歴史を引きずっていて、なかなか一元化が実現できていません。名大では建物などの状況が揃えば一元化

の方向でいくという基本原則は商議員会で決議していますし、利用者サービスに優れた図書館を目指しています。

**総長** 図書館が知の宝庫であることは紛れもなく、先達が残してくれた知の遺産を短時間にある程度は自分のものにできますが、私は、文献は書かれていることも大事ですが、書かれていないこと、行と行の間も読みこなし、常に批判的な目で見ないと新しい自分の考えを汲み出せないよと学生を指導してきました。

図書館は大学における重要な基盤であることに間違いのないところですが、まだまだ十分ではなく、商議員の先生方も図書館のあり方の検討については努力してくれていますが、大学の構成員全体がもう少し理解しなければいけないと思います。

私が工学部の図書委員をしていた頃、統合の話を進めましたが、外国雑誌の重複をいい形で整理しようというときに、単純にお金の問題だけで中止したりしないような制度を図書館全体で作ったのは良かったと思います。そうでなければタイトル数が大幅に減ってしまっていたと思います。現在、ある程度の購読を維持できているのは、少なくともその制度があったからです。

**館長** 電子ジャーナルに関しては、名大が全国でリーダーシップをとりながら、現在トップクラスの購読状況ですが、維持するのに部局負担、全学負担とも厳しくなっており、大学の意思として学術基盤の整備という観点があれば難しくなっています。

**総長** 学術雑誌は、中央図書館も含めて共通的な経費の枠組みと、学科や講座などの研究費で負担するものがある訳ですが、学問分野によって共通的なものとそうでないものがある。これをどう判断するか辛いところがあると思います。受益者負担という言い方をされるのも分らない訳ではないですが、理想的に言えば、学術基盤として共通的な枠組みのなかで、考えていかなければいけないと思います。

今後の電子ジャーナルの方向性と、ハイブリッド図書館の構想は大変よいことだと思います。古いものを含めて書物に触れ、目に見

えるものとのバランスをとる必要もあるでしょう。単行本も電子媒体で読めることはよいことですが、古い人間のせいか、ページをめくって見ることもある領域では必要ではないかと思います。

**館長** 図書館としては、紙媒体と電子媒体の収集を並行して行い、一部重複もやむを得ないという考えで、学習用、研究用などタイプによって収集の重点を考えながら時代に合わせてやっていくべきだと思っています。電子化の利点は、学問領域の壁を意識せず、文系も理系も全体を検索して見るということが可能になることです。

**総長** 古い人間の発想で言いましたが、これからの若い人にはそういうものも重要な手段かと思っています。一方では、物に触れるというチャンスも与える必要があると思います。その場合は、それなりの資料保管のスペースも考えなければいけません。

**館長** 最近の学生はインターネットで見たものをそのまま安易にレポートに貼り付けたりしていますが、インターネットには間違ったものもたくさんありますので、知の宝庫である図書館を使わないと、先生が言われた批判的に資料を見ることができません。批判的に見ればいかにホームページがいい加減なものが多いか分ると思います。無料で学術情報は手に入りません。価値ある情報は有料で、それらは次の世代に引き継ぐ財産でもあります。

**総長** そう財産です。先ほど別の意味で共通的な資料のことを言いましたが、雑誌やシリーズの本などは、できる限り揃えていき、欠けることのないようにしてほしいです。

## 教育・研究支援、社会貢献

**館長** 大学の役割として、教育、研究および社会貢献が挙げられていますが、図書館はそれに全部絡んでいます。図書館は、研究はもちろん、教育・学習、また知の集合体である大学の知の宝庫ですので、その点からも市民によく顔が見える所でもあります。人によって図書館に対するイメージが違いますが、先生のイメージはいかがでしょうか？

**総長** ある意味では社会貢献的な発想で考える

のは、まだ日本の社会では歴史が浅いと思います。大学図書館は、管理、体制の問題もあって、なかなか敷居が高い所でした。ここ最近、図書館関係者の努力もあって、ようやく市民の皆さんに知られるようになりましたが、別の所で話した時も、「本当に大学図書館が利用できるのですか？」という反応で、一般的な認識はまだそういうところで、これからだと思います。社会貢献という立場でも図書館を発展させていく上で、図書館の「友の会」の発足は意義のあることで、大学としても「友の会」の方々に応えるよう自分たちも努力していかなければなりません。

**館長** もう少し積極的な意味で取り組んだことですが、東海地区に公共図書館と大学図書館との協議会をこの秋に発足させました。文科省も総務省も社会貢献をやりなさいと言っていますが、人員、予算もないので、結局自助努力でやるしかありません。大規模に連携をしようとする、大学や国、地方公共団体のコミットがないと難しいと思います。

**総長** 行政上の問題も残っていますが、大学がどこまでできるか、例えば、地域連合の図書費として国から予算配分を受けるような受け皿を作れるかどうかです。大型研究など大学間連携を重視するようになってきているので、図書館が地域の図書館と連携・協力を今後図っていくことは大変良いことだと思います。大学としてもできるだけサポートし、予算にも限りがあるので地域の大学連携で対応するのも一つの方法だと思います。まず、自分のところが努力をして、それぞれの大学の良いところを、地域に提供し、連携をとるのが必要だと思います。

**館長** 人やお金の問題では、大学図書館も苦しいときですが、公共図書館はもっと苦しく、特に職員の資質向上の点で、大学に期待するところが大きいようです。お互い良いところを出し合って前向きに打開しようとしています。その中で研究開発能力、すなわち、新しいことに対応していく能力が大学にはあると期待されています。名古屋大学では学内のご理解もあって研究開発室を作っていただいています。そのおかげで毎年展示会や講演会もできていますし、平成17年は国際会議もや

り、新しいプロジェクトや企画ができるようになっていきます。先生は大学図書館の研究開発についてどんなイメージをお持ちですか？

**総長** 正直始めは何をやるのかよく分らなかったのですが、文書資料室、博物館を含めて学内の学術アーカイブとの連携をとった上で、図書館の中の新しい方向を提唱する部署は強化したいと思っています。資料の収集・整理のあり方はもちろんのこと、今年飯島元学長の貴重な資料をいただきましたが、高木家文書などのような資料を掘り起こし、閲覧だけでなく解釈を加えて、皆さんに提供していくところに位置付けしてくれるのが必要だというのが私の理解です。

**館長** そうだと思います。さらにもっと積極的に地域貢献特別経費などを受け入れています。教育研究に密着した形で、図書資料を研究対象とし高度なサービス方法を研究してくれる教員がいないと今後はやっていけないと思います。

**総長** 共通基盤となる（特別）室などについては、全学的運用定員に関する委員会を通して検討してもらっていますが、大学の発展のために貢献するシステムを提唱できるようなものにしたいと思っています。

**館長** 話は変わりますが、文系からよく言われるのは、大型コレクション経費を文科省が廃止してしまいましたが、大学としての購入の仕組みを作ったらどうかとの要請にはどう思われますか？

**総長** 文系と理系のバランスある発展は当然で、重要な研究資料をコレクションに加えるということは大切なことです。大学のなかで議論をし、そのような仕組みを持つことはやぶさかではないのですが、今さまざまな研究費を取ることができるようになってきていますので、明確な説得力をもって競争的資金へのアプローチもしてほしいと思います。緊急かつ重要な場合には、図書館を通じて、あるいは大学と一体になって、国や財団の支援が得られるよう努力すべきで、文科省への要望も、ある意味競争なので、名大に置く必要性、説明責任、説得力を充分にもって臨まなければなりません。



平野総長と伊藤館長

### 知、そして学への誘い

**総長** それから、これはやってくれていることですが、名大の教員が出版した本は、共著も含めて、本学の大切な知的財産でもあるので、これらを収集し、図書館として大事に保存・閲覧できるようにお願いしたいと思います。

**館長** 現在、毎年先生方にもお願いしています。名大出版会発行のものも含めて、2冊ずつ寄贈を受け、1冊は3階の見易い所に教員著作として配架し、もう1冊は開架書架に分類に従って配架しています。教員著作コーナーを見た学生は、文系、理系を問わず、名大の先生方の活躍を見ていると思います。今後は図書館の外のプラザなどに出していけば、地域に対する名大の信頼性にも貢献するのではないかと思います。

**総長** 今構想しているアーカイブのゾーンに、図書館、博物館、文書資料室などと連携をとって、そのような場をつくり、市民の皆さんに触れてもらえるようにしたいと思っています。

**館長** 市民に広く広報する場所があれば有効かと思っています。今、職員を配置するのは難しいと思いますので、ボランティア、退職されたOB、「友の会」や同窓会などと連携して何かできれば力になるかもしれません。

**総長** 常勤職員というわけにはいかないのですが、全くのボランティアということも難しいでしょうから、せめて交通費と食事代程度、僅かですが、携わることに喜びを感じてくれるような人をお願いできたらよいと思います。ま

た、大学と一体感を感じてもらえるような「友の会」の制度を図書館が創ったので、大学の社会貢献事業を進めるなかで、次のステップに移る良いきっかけとなります。

**館長** それでは最後に、これからの附属図書館に対して期待されることを、なんでも結構ですでお話しただけですでしょうか。

**総長** ホームページなど時々見ておりますが、学外の方にもよく発信されていると思います。私は図書館、博物館のような施設、今構想しているアーカイブ、野依記念学术交流館、建設に入る赤崎記念研究館など、そういう所を見てもらい、大学の知に触れていただくプロムナードにしたいと思います。特に、学術の基に触れていただくために図書館にずっと入り浸ってもらっていいので、そういう場を学外の方にも提供できるようにしたいと思います。それも敷居が高くなっていただけのようにしたいと思います。とはいえ、国から付託されている財産、図書一冊一冊を大切に作るシステムも必要で、そのバランスをとりながら開かれた大学にするよう努力したいと考えています。重要な基盤である図書館も開かれたものになってほしく、そのための支えは大学全体が努力していくつもりです。図書館の目指す方向はよく理解しているつもりなので、それを伸ばしていってほしいと思っています。

**館長** 最近随分敷居を低くし、市民の方も相当数入館して熱心に勉強されているようです。

**総長** 開館の時間を含めて、職員の方々が支えてくれていますので、冒頭にお話しした時の図書館から見ると全く変わり、良い方向にきていると思います。

**館長** 図書館の職員は、自分たちがやらなければという気持ちで非常がんばってくれています。大変厳しい状況ですが、職員共々ががんばりたいと思います。長時間にわたり、どうも有難うございました。

(ひらの・しんいち 総長)

(いとう・よしと 附属図書館長)

## 附属図書館友の会の発足によせて

### 附属図書館友の会事務局

名古屋大学附属図書館では、昨年10月に附属図書館友の会が設立され、会員の募集活動を始めました。図書館友の会は、一般市民や学生、教職員を対象に、名古屋大学附属図書館における地域の利用者の学習、研究活動の支援、利用者間の交流の促進を行うことと、同時に附属図書館の地域社会との連携・貢献活動をサイドから協力し支援することなどを目的としています。

これは、国立大学法人となった名古屋大学が掲げるミッション（使命）のひとつである社会連携・貢献活動のもとに、その一環として位置付けられるものでもあります。公共図書館には、全国に多数の友の会があり活発に活動をしているようですが、大学図書館友の会は、日本では例が少なく、今後会員や大学、図書館など多くの方々と相談と工夫をしながら活動の形を探りつつ進めていくことになると思います。

友の会の活動としては、会員への図書館関連情報の提供、会の活動ニュースなどの発行、会員の交流・情報交換を図る行事の企画と開催が計画されており、今後、会員を迎えて、多くの方に主体的に参加していただきながら具体的活動計画を検討していきたいと考えています。

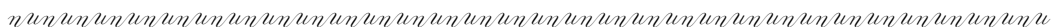
友の会発足以来、附属図書館への来館者や図

書館の企画展示会、講演会への参加者、学内教職員、学生などのみなさんに入会案内を配布し郵送したりして入会を呼びかけ、2月初旬現在、一般会員として120名、賛助会員、準会員を合わせて130名ほどの会員を迎えています。会員となった方には別途会員の特典が与えられ、中央図書館利用証の交付（一部資料の館外貸出可）、図書館広報誌の館燈（季刊）、LIBST Newsletter（年3回）の送付、附属図書館主催の企画展示会・講演会などへの招待が受けられます。こうした活動を支える経費として一般会員では年間2千円の会費を納めていただく仕組みになっています。

友の会では、今後こういった友の会に係る活動が、中央図書館のみならず、全学の図書館・図書室の利用者に広がり、大学図書館における学術情報の提供とその利用支援が、大学内に閉じられるのではなく、図書館のできる範囲内での地域社会との共有サービスとして活用されることを目指していきたいと考えています。

URL: <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/>

E-mail: [tomo@nul.nagoya-u.ac.jp](mailto:tomo@nul.nagoya-u.ac.jp)



## 東海地区図書館協議会の設立について

昨年11月1日に名古屋大学附属図書館で開催された東海地区公共図書館と大学図書館館長懇談会（第2回）において、東海4県の公共図書館と大学図書館の連携と協力を目的とする図書館間の協議体の設立が合意され、同日付けで東海地区図書館協議会を設立することが決定されました。

同協議会には、愛知、岐阜、三重及び静岡の各県立図書館と、名古屋市鶴舞中央図書館、及

び東海地区大学図書館協議会（参加84大学）に加盟する4国立大学、1公立大学、3私立大学が理事館として参加し、今後、館種を越えた公共図書館と大学図書館の連携・協力を進める具体的な事業の実施に向けて検討を進め、順次できることから事業を進めることになりました。

名古屋大学附属図書館も、この協議会に会長館、理事館として参加し、現在、具体的な実施案の検討に積極的に参加しています。

**[ 東海地区図書館協議会の設立の趣旨より ]**

- ( 1 ) 高度に情報化された社会の進展する中で、国民の広範囲な生涯学習志向の高まりと、「情報」に対する需要はかつてない状況で高まっている。この社会への情報の提供は図書館の重要な任務であり、今までにない館種を越えた図書館の連携・協力によってその期待に応える態勢作りを目指す必要がある。
- ( 2 ) 図書館サービスの電子化による多様化と専門性の高まりに対応するため、大学図書館と公共図書館の交流を深め、それにより双方の図書館職員の高度な専門性の育成と能力の向上を目指す必要がある。

こうした状況を踏まえ、東海地区の公共図書館と大学図書館は、相互の連携と協力を押し進める母体となる団体として、東海地区図書館協議会を設立する。

**[ 連携・協力の事業 ]**

連携・協力の具体的事業については、昨年1月に開催された第1回目の図書館長懇談会において、東海地区の公共図書館・大学図書館で連携・協力ができないか、また何が可能かについて検討を行うことが合意され、その後に各図書館の実務担当者などを集めて設置された連携・協力検討部会の中で、

図書館資料の相互利用、複写・貸借サービス、資料の保存協力

レファレンス協力体制の構築とデジタルレファレンスなどの高度化

電子的資料コレクションの共同開発・公開  
図書館職員の専門性の養成事業

などについて鋭意検討が進められています。今後、合意に達した事業について、準備の整ったところから各館が順次参加していくといった無理のないゆるやかな協力形態で進めていくことになっています。



## 2004年秋季特別展「川とともに生きてきた」を終えて

秋山 晶 則

### 1. 地域貢献プロジェクトと東高木家文書

2004年は、やむことのない戦争の悲惨とともに、地震、洪水、津波など、未曾有の自然災害が集中した年として記憶にとどめられるであろう。こうした自然災害に対し、人々は、地域社会は、どのように対応してきたのであろうか。われわれは、その興味深い事例の一つを、木曾三川流域に遺された歴史情報資源のなかにもみることができる。

なかでも、名古屋大学附属図書館が所蔵する「高木家文書」(総点数10万点規模)は、この木曾三川流域の系統的治水史料として注目を集めており、附属図書館研究開発室では、ハイブリッドライブラリー構築の一環として、当該文書群及び関連史資料の継続的調査・研究を行ってきた。さらに、その成果を地域貢献活動にも活

かすため、愛知県教育委員会及び岐阜県上石津町教育委員会と連携し、「木曾三川流域の歴史情報資源の研究と活用」プロジェクト(文部科学省地域貢献特別支援事業)を進めている。

このプロジェクトで新たに調査を開始した対



象の一つが、今回の特別展でとりあげた東高木家文書である。東高木家とは、高木家文書を伝来した西高木家の分家で、同じく分家の北高木家(2003年秋季特別展で新発見史料として紹介)とともに、江戸時代を通じて木曾三川流域の治水を管掌した旗本である。この東高木家旧蔵の治水文書は、1930年頃に流出し、分散を憂えた高須輪中の森川氏の手で保存されてきたが、将来に向けた保存・活用を図るには、現状確認を含む悉皆調査が不可欠と判断し、現蔵者である森川勝之助氏のご協力により調査を開始したもので、現在までに5,000点を超える治水文書を確認している。

## 2. 特別展の概要

こうした経緯のもと、プロジェクトの成果を広く公開するとともに、如上の現代的課題に引きつけ、災害と地域社会の問題、自然との共生などについて検討することを狙いとし、前述の上石津町教育委員会をはじめ、愛知・岐阜・三重の各県教育委員会及び名古屋市教育委員会の後援を得て、2004年10月29日から15日間の日程で特別展を開催した。

会期中は、新聞数紙による報道もあり、県内外各地から多数の来場者を得て、熱心に参観いただくことができた。この場をおかりして、所蔵者をはじめ、関係各位、関係各機関に厚くお礼を申しあげる次第である。

なお、実際の展示は、巨大な河川絵図など四十点ほどの史料を配置し、「流域治水と三川分流構想」「宝暦治水の諸相」「地域間の矛盾と対応」の三部構成で行われた。特に配意したのは、宝暦治水で取り組まれる三川分流構想が、地域社会のなかでどのように胚胎、共有化されていたのか、史料的に跡づけることであった。それは、地域住民の環境認識とそれにもとづく行動をクローズアップするとともに、そこで実現した治水事業が、新たな地域間矛盾を増幅し、広域争論を惹起したことに示されるように、流域治水の際だつ困難性を浮き彫りにするものともなった。

## 3. その他の企画と今後の課題

このほか、主会場に隣接したパネル展示場では、東高木家文書を含む高木三家の文書群を対



象に開発中の「高木家文書デジタルライブラリー」(平成16年度科学研究費補助金による成果の一部)を試験公開し、大きな反響を得た(2005年春季特別展では、これらのデジタルコンテンツを全面公開予定)。

また、2004年が宝暦治水着工250年の節目にあたることから、10月30日には「『宝暦治水』の虚像と実像」と題する講演会を開催し、「東高木家文書からみた『宝暦治水』」(秋山晶則)、「鹿児島県における研究の現状と展望」(内倉昭文 上掲写真)、「宝暦治水工事と 聖地の誕生」(羽賀祥二)の各講演が行われ、サテライト会場も溢れる200名を超える参加があった。講演と質疑を通じて、事業の実態とその後成形された歴史像には相当の乖離があることが浮かびあがっており、今後、本格的な論議が求められよう。

さらに、新たな試みとして、11月6日には、展示史料解説を旨とする「古文書講座」を開催したところ、70名を超える参加があり、好評を得た。アンケート等でもこうした企画への要望が寄せられていることから、今後とも工夫を重ねたい。

なお、今回の特別展では、調査途上の史料群を対象としたこともあり、学際的な共同討議や共同研究の準備が整わず、史料群が有する豊かな世界のごく一部しか紹介できなかったことは大きな反省点である。あらためて、学内外の多様なネットワークを用いた資料の高度活用という目標を確認し、引き続き情報資源の共有化を進めることを課題としたい。

(あきやま・まさのり 附属図書館研究開発室)

## 経済学部図書室のリニューアル

岡田 智行

経済学部図書室は、地下鉄名古屋大学駅から一番近いところにある図書室の一つです。所在場所が、表通りに近い割には比較的閑静な環境が保たれています。また図書室の北側 - 経済学部本館との間には中庭（和風庭園）が広がり、ロビーから眺めることができます。ロビー・スペースは改修前もありましたが、改修後は広くなり、ガラス窓が大きくなり、明るい雰囲気を保ち、研究や勉強に疲れた利用者の休息の場になっています。また大き目の荷物も収容できるコインロッカーを新しく配置し、図書室のエントランスとして利用者を迎えます。

さて経済学部図書室は、平成15年度に改修工事を受けて新しく生まれ変わりました。平成16年3月に再オープンしたのですが、改修工事前の図書室は、図書室として一箇所にまとまっていたものの、単行書の多くが事務室を通って入る書庫の中に配架され、しかも学部生は入庫が認められていませんでした。また新着雑誌は閲覧室の奥に別室のような形で配架されており、利用しやすい環境であったとは言いにくい状況でした。

改修後の経済学部図書室の特徴は、以前から使用していた第1書庫（積層式書架）はそのままだに利用し、事務室の場所を東端へ移し、第1書庫から延長するような感じで書庫を整えました。そして第1書庫だけではなく（貴重書室、マイクロ資料室を除く）全ての書庫が、学部生

も含め全利用者に完全な開架式となり、利便性を図りました。また図書室とは別に置かれていた図書類（主に名高商・経専の図書）も全て第1書庫2階に集めました。

このように所蔵図書資料の集中化を図ったものの、反面、所蔵スペースを確保するために第1書庫と貴重書室、新着雑誌架を除き、他は全て集密書架となりました。新しい集密書架と古い積層書架とで一つの大きな書庫を形成しているということですが、残念ながら天井の高さの制約から背の高い書架を入れることが不可能であり、集密化した割には所蔵可能冊数が伸びませんでした。また複数の人間が同時に近接した書架へアクセスすることが難しく、これは利用者間だけでなく、職員にとっても作業が行いにくい時もあります。

その他には閲覧席に隣接するように雑誌架を配置し、新着雑誌の利用を容易なものとししました。スペースの事情で閲覧席の数は減ったものの、利用頻度の高い雑誌や図書へのアクセスは以前の状態より容易なものとなりました。

利用者の利便性を高めることは、他にも図書の貸出・返却のオンラインシステム化が挙げられます。旧来の経済学部図書室では、貸出希望の図書を1点ずつ請求カードに記入してもらっていましたが、今度は中央図書館や他部局と同様のバーコードによるオンラインシステムに切り替えました。





さて経済学部図書室は、部局図書室ではありませんが専用の貴重書室があります。これは照明、外光、換気、空調など貴重書への環境面を考慮した書庫となっています。発行が1850年以前の西洋古刊本を約1,700点ほど所蔵しています。その中ではイギリス土地台帳（Domesday Book）、アダムスミス「国富論」初版4版、カールマルクス「資本論」マイスナー本初版、トマスモア「ユートピア」（1597）などが著名で、他にも18世紀から19世紀にかけてのイギリスの総合雑誌類（Annual Register, Blackwood's Magazine, Edingburgh Review等）やマイクロフィルム（イギリス革命文献コレクション等）があります。

また経済図書室は、永らくEU資料センター（EDC）としても活動しており、1973年以後のEU公式資料を受けいれています。EU資料センターは全国で19の大学がなっていますが、中部東海地区では名古屋大学経済学部図書室だけがEU資料センターとなっており、地域の企業や個人からの問合せ、資料提供に便宜を図っています。EU拡大・統合は21世紀の日本にとって

も少なからず影響を与えるものであり、単に経済学の分野だけに限定することなく、法律、政治、産業、文化など多くの分野に渡る資料を提供しています。近年では資料の電子化が図られていますが、電子化された資料はもちろん、従来の紙媒体の資料についても情報提供や使い方の手引きを行っています。

さて今後の課題としては、まず利用者用に開放している端末が2台だけしかなく、OPACを中心に利用してもらっていますが、混んでいるときはお待たせすることがあり、台数を追加したいという希望があります。機械がらみでいえば、ビデオ資料も所蔵しているものの、ビデオを視聴できる機器やブースがないことも問題です。また経済図書室は既に述べましたように貴重書やEDCなどユニークな図書資料を所蔵しています。これらの図書資料について、外部への広報活動がこれまでは不活発でした。今後は貴重書やEUに関わる展示会なども催せたらと考えています。

（おかだ・ともゆき 経済学部図書掛長）

~~~~~

## E-book 導入のお知らせ ー図書館ホームページから使えますー

E-bookは、印刷された書籍の電子版で、htmlまたはPDFファイルで提供されます。

ご利用はこちらから <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/db/DBannai/dbebook.html>

NetLibrary（学内限定）

NetLibraryは、非常に幅広いE-bookのコレクションを世界中の多くの図書館や組織に提供しています。調査資料、参考書、一般書籍などを、どこからでもオンラインでアクセスすることができるようになっています。また、複数のE-bookの内容を横断検索したり、1冊のE-bookの内容だけを検索したりすることも可能となっています。

今回購入296タイトルに加え、3,407タイトル（publicly-accessible title）が利用できます。

学外からの利用には、あらかじめ学内LANに接続されたPCからアカウント登録が必要です。

Gale Virtual Reference Library（東山キャンパス限定）

Galeグループ刊行の参考図書のE-book版。下記の2タイトルが検索できます。

- ・ New Dictionary of the History of Ideas
- ・ Gale Encyclopedia of Science 3rd ed.

問い合わせ先：参考調査掛 [sanko@nul.nagoya-u.ac.jp](mailto:sanko@nul.nagoya-u.ac.jp)

## 電子ジャーナルのタイトル数が 12000 以上になりました！

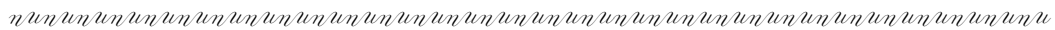
附属図書館では、新たに下記3点の電子ジャーナルパッケージを導入しました。

これで、12,000誌以上の雑誌が電子ジャーナル・アクセスサービス (<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/ej/index.html>) から利用できることになりました。どうぞ奮ってご利用ください。

Oxford University Press (約170誌)

UniBio Press (日本の生物系学会の英文3誌)

LexisNexis Academic (世界各国の新聞、雑誌、企業情報、法律情報を網羅した総合情報データベースで、約6,200種類の情報源にアクセスできる。うち、約4,000種類が全文を入手可能)



## 図書自動貸出機を設置しました !!

中央図書館に図書自動貸出機を3台設置しました。場所は2階の貸出カウンター前に2台、3階OPACコーナー横に1台です。

タッチパネル形式で利用者自身が簡単に使用できるものです。操作は画面の指示に従ってカード(学生証等)を挿入し、借りたい本を機械に置き、最後に返却日が記入されているレシートとカードを受け取れば完了です。

これまで、時間帯によっては貸出カウンターに長々と並んでいただき、ご迷惑をおかけしましたが、今後カウンターも含め4箇所貸出手続きができるようになりました。

利用に関するご質問やご不明な点は貸出カウンターまたは閲覧掛(内線:3678)までお問い合わせください。

- \* 利用時間: 8時45分 ~ 21時  
(休日は16時30分まで)
- \* 使用できるカード: 学生証・職員証・  
名誉教授証・中央館利用証
- \* 破損したカードは使用できません。
- \* 貸出可能資料: バーコードラベル貼付の図書
- \* カードと返却日通知レシートの取り忘れにご注意ください。

みなさまの積極的なご利用を期待しています。



●●●●●●●●●●●●●●●● [国内図書館関係日誌] ●●●●●●●●●●●●●●●●

- 16.10.12 平成16年度第1回デジタルコンテンツ・プロジェクト会議（於：国立情報学研究所）出席者：郡司情報システム課長
- 16.10.15 国立情報学研究所シンポジウム「学術出版と学術コミュニケーション活動の変革～SPARC/JAPAN事業を事例として～」（於：広島大学）出席者：北村情報管理課長
- 16.10.20 第57回国公立大学図書館協力委員会（於：慶應義塾大学）出席者：伊藤館長、山下事務部長
- 16.10.20 平成16年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会（於：国立国会図書館）出席者：伊藤館長、山下事務部長
- 16.10.22 国立大学図書館協会理事会（平成16年度第3回）（於：京都大学）出席者：伊藤館長、山下事務部長、郡司情報システム課長
- 16.10.22 国立大学図書館協会国際学術コミュニケーション委員会（平成16年度第2回）（於：京都大学）出席者：山下事務部長
- 16.11. 1 東海地区公共図書館・大学図書館館長懇談会（於：名古屋大学）出席者：伊藤館長、山下事務部長、他6名
- 16.11.16 平成16年度国立情報学研究所公開講演会（京都會場）（於：キャンパスプラザ京都）出席者：大嶋寛子情報サービス課参考調査掛員
- 16.11.18 国立大学図書館協会人材委員会（平成16年第1回）（於：東京大学）出席者：山下事務部長
- 16.11.29～11.30 第17回国立大学図書館協会シンポジウム＜西地区＞（於：広島大学）出席者：山本情報管理課資料管理掛長
- 16.12. 1 東海地区図書館協議会連絡・協力検討部会（於：名古屋大学）出席者：北村情報管理課長、臼井情報サービス課長、伊藤情報管理課課長補佐、川添情報サービス課参考調査掛長
- 16.12. 1 東海地区国立大学図書館協会事務連絡会（於：名古屋大学）出席者：山下事務部長、他6名
- 16.12.15 国際セミナー「デジタル時代のドキュメント・デリバリーサービス：ビジョンと戦略」（於：国立国会図書館関西館）出席者：逸村研究開発室助教授、臼井情報サービス課長

●●●●●●●●●●●●●●●● [学内動向] <16.10.6～17.1.5> ●●●●●●●●●●●●●●●●

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第16-4回附属図書館商議委員会&lt;10.8&gt;</li> <li>・第16-4回学術情報事務会議&lt;10.15&gt;</li> <li>・第6回研究開発室ファカルティ・ミーティング&lt;10.25&gt;</li> <li>・医系・理系図書室連絡会&lt;11.11&gt;</li> <li>・蔵書整備委員会（第16-4回）&lt;11.25&gt;</li> <li>・電子図書館推進委員会（第16-4回）&lt;11.25&gt;</li> <li>・第7回研究開発室ファカルティ・ミーティング&lt;11.29&gt;</li> <li>・図書館システム検討委員会（第16-4回）&lt;11.30&gt;</li> <li>・和漢古典籍整理専門委員会（第16-2回）&lt;12.1&gt;</li> <li>・第16-5回学術情報事務会議&lt;12.7&gt;</li> <li>・第16-5回附属図書館商議委員会&lt;12.13&gt;</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回研究開発室ファカルティ・ミーティング&lt;12.20&gt;</li> </ul> 行事 <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生ガイダンスツアー・英語（於：附属図書館）&lt;10.5&gt;</li> <li>・留学生ガイダンスツアー・中国語（於：附属図書館）&lt;10.7&gt;</li> <li>・秋季留学生オリエンテーション（於：名古屋大学）&lt;10.7&gt;</li> <li>・留学生ガイダンスツアー・英語（於：附属図書館）&lt;10.8&gt;</li> <li>・名古屋大学附属図書館2004年秋季特別展内覧会（於：附属図書館）&lt;10.28&gt;</li> </ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- ・名古屋大学附属図書館2004年秋季特別展 - 川とともに生きてきた (於: 附属図書館) <10.29 ~ 11.12>
- ・名古屋大学附属図書館2004年秋季特別展講演会 - 「宝暦治水」の虚像と実像 - (於: 附属図書館) <10.30>
- ・名古屋大学附属図書館2004年秋季特別展古文書講座 (於: 附属図書館) <11.6>
- ・飯島元学長夫人への感謝状贈呈式 (於: 附属図書館) <11.18>
- ・第11回附属図書館研究開発室懇談会「カースト社会の悲劇 - バラモン女性20歳の火葬 - 」 (於: 附属図書館) <11.29>
- ・電子タグの現状と次世代ディスプレイについての勉強会 (於: 附属図書館) <12.13>
- ・附属図書館研究開発室第1回ワークショップ「紙資料の保存を考える」 (於: 附属図書館) <12.22>

#### 研修会・講習会等への参加

- ・情報システム統一研修第1回情報リテラシーB-2 (Excel2000版) コース (於: 名古屋大学) <10.1 ~ 12.28>参加者: 米津友子 (中)
- ・メンタルヘルスケア講習会 (於: 名古屋大学) <10.6>参加者: 2名
- ・2004年EDCトレーニング・セッション (於: 駐日欧州委員会代表部) <10.13 ~ 10.15>参加者: 峯岸ななえ (経)
- ・平成16年度総合目録データベース実務研修 (於: 国立情報学研究所) <10.18 ~ 10.29>参加者: 澤田さとみ (工)
- ・国立情報学研究所 緊急シンポジウム「どうする日本の学術誌!」 (於: 早稲田大学) <10.19>参加者: 山下事務部長
- ・平成16年度大学図書館職員講習会 (於: 京都大学) <11.9 ~ 11.12>参加者: 大塩和彦 (中)
- ・第24回西洋社会科学古典資料講習会 (於: 一橋大学) <11.9 ~ 11.12>参加者: 渡邊通江 (文)
- ・大学図書館等関連事業説明会 ~ NII Library Week 2004 (於: 名古屋大学) <12.8>
- ・平成16年度第1回東海地区大学図書館協議会研修会 (於: 附属図書館) <12.17>
- ・職員のためのセクシュアル・ハラスメント防止研修会 (主任以下の職員等対象) (於: 名古屋大学) <11.17>参加者: 8名
- ・職員のためのセクシュアル・ハラスメント防止研

修会 (掛長以上の職員対象) (於: 名古屋大学) <12.20>参加者: 6名

#### 人物往来

- <ご多幸をお祈りします> - 退職された人 -
- ・柴田恵 (情報システム課雑誌掛) 10.11
- ・小林忠資 (教育学部図書掛) 10.15
- ・孟科 (国際開発研究科情報資料室) 10.31
- ・小倉奈津子 (情報サービス課相互利用掛) 11.30
- ・大和祐子 (情報サービス課相互利用掛) 12.31
- <ご健闘を期待します> - 他機関へ採用になった人 -
- ・北村明久 (長崎大学図書館部長) 1.1 (附属図書館情報管理課長から)
- ・大嶋寛子 (三重大学附属図書館) 1.1 (情報サービス課参考調査掛から)
- <はじめまして> - 他機関から新しく採用になった人 -
- ・牧村正史 (附属図書館情報管理課長) 1.1 (金沢大学附属図書館図書サービス課長から)
- <はじめまして> - 新しく採用になった人 -
- ・阿部豪 (情報システム課雑誌掛) 10.16
- ・藤井基貴 (教育学部図書掛) 10.16
- ・宋冰 (国際開発研究科情報資料室) 10.16
- ・小坂郷子 (情報サービス課相互利用掛) 12.1
- ・宮澤享子 (教育学部図書掛) 12.1
- ・陳姿吟 (国際開発研究科情報資料室) 12.1
- ・入山美智子 (情報サービス課参考調査掛) 1.1
- ・吉見とき子 (情報サービス課相互利用掛) 1.1

#### 規程等の制定・改正

- ・医学部分館の防犯用ビデオカメラ及び録画装置の運用に関する暫定要綱 (16.11.29制定)

#### 部局動向

- ・国際開発情報資料室: 秋期留学研究生ガイダンス <10.6>参加者8名
- ・国際開発情報資料室: 文献探索ガイダンス <11 ~ 12月の水曜>参加者18名
- ・附属学校図書室: 愛知県学校図書館研究会高等学校部会名瀬地区研究会 (16年度第3回) 開催 <11.17>

#### 編集委員会

白井克巳 (委員長) 山本利幸 (中) 森田友久 (中)  
三好千里 (中) 渡邊通江 (文) 澤口由好 (法)  
川窪知子 (医保) 山田敦子 (農)